

本号のテーマ：「育てる」

今回の皆既月食は、「スーパー・ブルー・ブラッドムーン」。お天気が心配されましたが、佐久市ではほぼ観察できました。私は家の中で娘とゴロンと横になり、窓から見える月を観察しました。お互いの知識を持ち寄り、その知識に不安がある時にはタブレットで調べながら、ゆっくりと変化する月の美しい姿に、心癒された時間でした。佐久地域は星がきれいに見えます。以前うすだスタードームで見た天の川は、本当に美しくこぼれ落ちそうな迫力でした。

宇宙飛行士の油井亀美也さんが子どもの頃に、お父さんに買ってもらった天体望遠鏡を持ってレタス畑で星の観察をしていた話は有名ですね。子どもにとっての自然体験は、認知力を高め創造性が培われるなど、様々な良い影響があるといわれています。自然豊かな佐久市は、子育てに適した環境といえるでしょう。



[1月31日 皆既月食「スーパー・ブルー・ブラッドムーン」] ～うすだスタードーム撮影～

「教育委員会の動きなど」

1 感性を育てる

15回目を数えた「わがまち佐久・市民講座」。ふるさとの自然や、歴史・文化あるいは先人たちの功績等を共有して、郷土への愛着や誇りを高め、自信を持って佐久を紹介し、全国に誇れる特色あるまちづくりの動きを生みだすきっかけとなる講座として開催されています。

今回は1月13日に、「山階鳥類研究所 名誉顧問 山岸哲さん」を講師にお迎えしました。山岸さんは幼少時代を臼田で過ごし、外遊びが大好きで近所の子どもたちといつも魚や鳥を捕って遊んでいたそうです。小学校4年の時に神社でコバルトブルー色の野鳥の卵を拾い、そこから鳥の世界へ夢中になります。「鳥を追っているうちに、どこまで近付くと鳥に嫌われて、どこまでが許容されるか、経験から感性を身に付け、この事が私の後の研究生活に非常に役立ちました。感性というものは経験でしか学べないものです。」その後、中学生の時、山岸さんはお母さんの勧めで生物学者の羽田健三さんの「戸隠探鳥会」に入ります。羽田さんとの出会いは将来を決定付ける非常に意味のあることとなったそうです。現在78歳。「人間歳をとると、人の役に立ちたくなるものです」と鳥の保護活動や子どもたちの教育活動にご活躍されています。

山岸さんのお話から自分の子育てを振り返ると、感性を育てるような環境を与えているだろうか？「危ない」や「汚れる」なんてことを心配し、子どもの好奇心を制限してはいなかったかな？もっと外で泥んこになって遊ばせてあげれば良かったかな？なんて反省ばかりです。子どもの個性を尊重し、サポートをする山岸さんのお母さんの姿から、子どもの可能性は無限大にあり、経験から学ぶもの全てに無駄なものはないと改めて感じました。人生の先輩からたくさんの大切なメッセージとエールを受け取った講座でした。

2 ネットを利用できる『人』として育てる

佐久市の子どもと電子メディアの関わりについて、家庭、学校、地域が手を携えて考え、その問題に取り組む活動をしている「SakuKids メディア Safety」の「佐久市子どもメディア作品コンクール2017の表彰式・講演会」が1月27日に行われました。

標語部門で市長賞を受賞したのは、野沢小学校6年小宮山智也さんの作品です。

「もどらない 書いた言葉と 仲間たち」

書いた言葉は消せなくて、それによって壊れてしまった仲間との関係は元には戻らないと、SNSの怖さを上手く表現しています。たくさんの子どもたちの心に届いて欲しい標語です。



〔作文部門で受賞し発表する櫻山結花さん：野沢中 2 年〕「気持ちの伝え方」教育長賞

講演会では、セーフティネット総合研究所 代表理事 南澤信之さんに「子どもたちのネット利用の現状と課題～SNS の危険性と留意点～」についてお話をいただきました。ネットを手探りで使っている私（一番だめなタイプ）には、大変勉強になりましたので、要点をまとめてみました。

SNSとは これまでの Web 検索情報とは違い、インターネットを使って人と人をつなぐもので、同じ価値観を持った人が集まるのが特徴。そのため警戒心の欠如やネット依存の危険がある。

ネット依存の主な症状 ①睡眠障害 ②精神障害 ③記憶障害 ④対人対応障害などがあり、克服するにはたくさんの時間を要する。

身近な大人がすべきこと 本質をしっかりとらえ、子どもたちを守り育てる。物理的な防衛として ①フィルタリングサービス（通信回線利用時にしか機能しないので、これだけでは不十分！） ②携帯端末の機能制限 ③アプリの自己防衛設定。

そして何よりも普段の生活の中で、ネットを利用できる「人」として育てる。

最近プロ野球選手が、妻のことをネットで誹謗中傷した20代女性に対し、200万円の損害賠償を請求し裁判をおこしたという報道がありました。匿名だから、ネットだから、人を傷つけることや無責任なことを書いてもいいのか、考えれば誰でも分かることです。しかし、深く考えずにのりや雰囲気流されて書いてしまうのが今のネットの実態です。「ネットを利用できる『人』として育てる」という意識は、今の子育てにおいて大変重要だと感じます。